

円地文子の世界

亀井秀雄・小笠原美子著

創林社刊

円地文子

数十年前 咲く 孫たち 中、小笠原 百人

首をとりたいといいうので 古い 羽留 羽

めい ないのにかう 古い 羽留 羽

三 巻 七 二

りした。 羽留 羽

円地文子の世界

亀井秀雄・小笠原美子著

創林社刊



亀井秀雄 (かめい・ひでお)

昭和12年，群馬県生まれ。昭和30年，前橋高等学校卒業。昭和34年，北海道大学文学部卒業。芦別高校，札幌東高校の教諭，岩見沢駒沢大学講師を経て，昭和43年，北大文学部助教となり，現在に至る。著書『伊藤整の世界』(講談社)『中野重治論』(三一書房)『小林秀雄論』(塙書房)『現代の表現思想』(講談社)『僕の集合性—大岡昇平論』(講談社) 現住所，岩見沢市春日町4-19-7

小笠原美子 (おがさわら・よしこ)

昭和28年，札幌市生まれ。昭和47年，札幌高等学校卒業。昭和52年，北海道大学文学部卒業。現住所，愛知県豊田市永覚新町2-56第2 永覚アパートC-203

円地文子の世界

一九八一年九月二十五日第一刷発行

定価一六〇〇円

著者 小亀原美子雄

発行者 宮西忠正

発行所 (株)創林社

東京都千代田区三崎町二の二の二
電話東京二六五—八〇七七 千101

須藤印刷 昇栄社製本

© HIDEO KAMEI

0095—0133—4281



円地文子氏、昭和51年撮影

17~8歳の頃

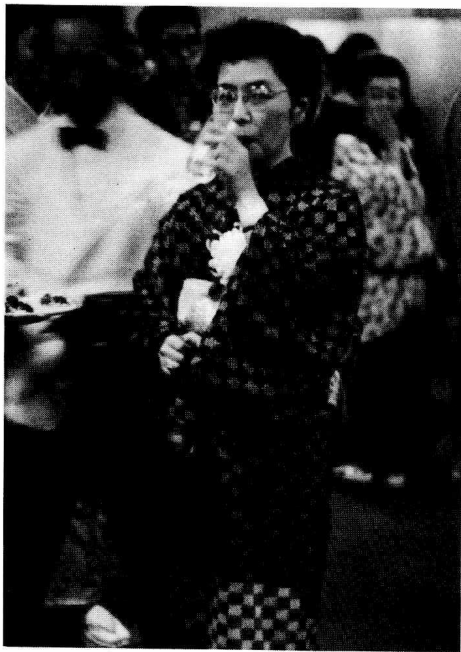


昭和5年3月27日、円地与四松(34歳)と結婚 文子、25歳

33～4歳の頃



昭和25～6年、「女坂」執筆の頃



昭和32年、「女坂」により野間
文芸賞受賞のパーティにて



昭和44年、三部作「朱を奪うもの」「傷あ
る翼」「虹と修羅」により谷崎潤一郎賞受
賞のパーティにて



昭和9年4月、映画「生活の設計」座談会 レインボーグリルにて
後列左から、長谷川春子、富本一枝、岡田幟子、松山房枝、松山みつえ
前列左から、林芙美子、阿部艶子、原信子、円地文子、長谷川時雨

明治41年、3歳 母・鶴子と



大正7年、日本女子大学付属高等女学校入学

目

次

円地文子——人と文学

小笠原美子

一 序	9
二 戯曲家への道	10
三 戯曲集『惜春』	15
四 初期の小説——『散文恋愛』など	23
五 文壇への復活——『女坂』『ひもじい月日』	36
六 巫女的女性の世界——『妖』『女面』	48
七 エロスの追求——『花散里』他	63
八 長編三部作『朱を奪うもの』	79
九 『源氏物語』現代語訳	85
十 仮現の世界——『遊魂』など	90

十一 「ももんがあ」の世界 107

円地文子の世界

亀井 秀雄

一 古典借景——『二世の縁 拾遺』の場合——	113
二 女と男あるいは性と権力の極地	134
三 家霊の文学	157
著作目録	181
年譜	195
主要参考文献	212
あとがき	218

円地文子の世界

円地文子——人と文学

小笠原 美子

